

して Kearns-Shy 症候群の電顕像を示す。筋鞘下に膨化した mitochondria の集積像が認められる。

〔ま と め〕

PMDを中心とした神経筋疾患患者の生検筋による組織化学的ならびに電顕的検索について現在までの経過を報告した。

(写 真)



4、超音波 Doppler 法による進行性筋ジストロフィー症患児の心機能の検討

徳島大学医学部小児科学教室

幸 地	佑	中 野	修 身
植 田	秀 信	松 岡	優
湯 浅	安 人	坂 井	ひろ子
佐 藤	登	宮 尾	益 英

進行性筋ジストロフィー症（DMP）児で、左心機能低下がみられることは、我々もすでに報告してきたが、その右心機能についての報告はほとんどない。今回、超音波弁ドップラー（DCG）に、頸動脈波（Car）、心電図、心音図を同時記録し、本症での右心機能および呼吸による影響について検討した。

〔対象及び方法〕

7才～14才の健康小児14名を正常群とし、7～14才のDMP児14名について検討した。

安静呼吸で仰臥位とし、心音図、心電図、頸動脈波と大動脈弁ドップラーあるいは肺動脈弁ドップラーを、それぞれ同時記録した。記録は、日本光電 8-channel polygraph に、yokogawa photo-corder Type 24298 を組み合わせ paper speed 100 mm/sec で行った。

肺動脈弁ドップラーの開放点 po から閉鎖点 pc までを RVET とし、心電図の Q から po までを RVPEP とした。大動脈弁ドップラーも同様に Ao から Ac までを LVET とし、Q から Ao までを LVPEP とした。

DCGより求めた LVET と、Car より求めた LVET はよく相関したので、左心系は Car より右心系は DCGより STI を計測した。また左右の STI の比較は、同時記録した同一心拍のもので行なった。

〔結 果〕

- 1) DMP児では、先行 R-R 相当の ET が、左右とも短縮しており、RVET の短縮程度は呼吸相で著しく、吸気相では正常群の値近くまで延長した。
- 2) DMP児では、呼気、吸気相とも RVET/LVET が正常群より大きく、吸気相においてより著明に増加した。
- 3) 呼吸による左右 PEP の変動は、ET に比べて少なかった。
- 4) 正常群の LVPEP / LVET は、呼吸による変動が少なかった。DMP児では、呼気、吸気相とも正常群より大きく、左心機能低下がうかがえた。
- 5) 正常群の RVPEP / RVET は、吸気相で減少した。DMP児の RVPEP / RVET は、呼気相において正常群より大きく、吸気相においては正常群の値近くまで減少していた。DMP児では、呼気相での RVPEP / RVET が正常群より大きく、右心系の機能低下が疑われた。
- 6) 左右の PEP/ET の値を比較すると、DMP児では正常群に比し (RVPEP/RVET) / (LVPEP/LVET) の値が小さく、右心系よりも左心系の機能低下の強いことがうかがえるが、このことについては今後検討の余地があると思われた。

〔結 語〕

- 1) DMP児では、正常群に比べて特に吸気相での RVET の延長が著しかった。従って右心機能の評価にあたっては、呼気相での比較が望ましいと考えられた。
 - 2) RVSTI からみた場合、DMP児では右心系の機能も低下していた。今回の data では、左心系の障害が強いようであった。
 - 3) DMP児の重症度と、左右心機能障害の程度との間に有意な相関は認められなかった。
 - 4) STI ことに RVSTI については、静脈還流量に影響する呼吸および骨格筋ポンプ作用などの因子も考慮する必要があると考えられた。
- 今後DMP児の呼吸機能や末梢循環と心機能との相関関係について検討していく予定である。

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

進行性筋ジストロフィー症(DMP)児で、左心機能低下がみられることは、我々もすでに報告してきたが、その右心機能についての報告はほとんどない。今回、超音波弁ドップラー(DCG)に、頸動脈波(Car)、心電図、心音図を同時記録し、本症での右心機能および呼吸による影響について検討した。